



給食の役割

校長 古屋 澄人

5月22日から、4年ぶりに対面での給食を開始しました。1年生から4年生までは、初めてグループになって給食を食べることになります。4月から5月にかけて給食の準備から配膳、片付けまでの流れを「給食スタンダード」としてまとめて、子どもたちには丁寧に指導しての実施です。

給食の歴史を調べてみると、明治22年(1889年)、最初の給食は山形県鶴岡町(現鶴岡市)の私立忠愛小学校だといわれています。横浜では、昭和21年12月 鶴見区の岸谷小学校で給食がはじまりました。

給食の目的は次の通りです。

給食の時間では、準備から片付けの実践活動を通して、計画的・継続的な指導を行うことにより、児童生徒に望ましい食習慣と食に関する実践力を身に付けさせる。

「食に関する指導の手引き」(文科省) 一部引用

日々の給食指導は主として学級担任が行っていますが、栄養職員の役割が大切になってきます。本校では、篠原管理栄養士が直接教室に出向いて、給食準備の様子や配膳の衛生面、食事のマナーの定着等について指導しています。また、校内放送を通して、画像で正しい配膳や調理の工夫、栄養について伝えています。



<給食指導中の篠原管理栄養士>

対面になったことで、子どもたちは会話を楽しみながら食事をする姿が見られるようになりました。子どもたちの感想を聞いてみると「話をしながら食べることができるので楽しい」「前向きのままだと話ができないので、話しやすい」などの感想がかえってきました。しかしながら、対面での給食に抵抗感をもっている子どももいます。「食事を楽しみながら、友達とマナーよく食べられるようにしよう」という会食のめあてにおいて、食事が楽しくなる会話の内容・声の大きさなどに気を付けて、お互いに気持ち良い雰囲気を感じながら給食を食べることができるようになっています。

※感染症の状況に応じて前向きでの給食も実施します。

余談ですが、私自身「納豆」が苦手でした。教師になって、給食で納豆が配膳されるようになり、納豆が食べられるようになりました。今は毎日欠かさず納豆を食べています。給食のおかげで「納豆」が大好きな食べ物の一つになりました。